Activity Report

活動報告 - いも煮交流会

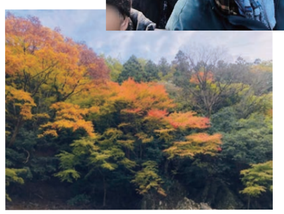
11月17日お天気に恵まれ、恒例のいも煮交流会を行いました。「トロッコ電車で紅葉を楽しみながらいも煮をしてはどうか」と避難移住者の方から提案をいただき、今年は亀岡に足を運ぶことにしました。

京都駅に集合しバスで亀岡の野外活動センターに向かいました。バスから降りて、紅葉が美しい川沿いを歩き、センターに到着。いも煮作り開始。昨年のいも煮会では火起こしが大変だったので、今年は、まき、炭、着火剤を多く用意して準備万端で臨みました。

メニューはいも煮、おにぎり、おしるこ（関西ではぜんざいですね）。参加者がそれぞれ自分のできることを見つけ作業開始。火起こし。料理の準備。テーブルセッティング。子ども達は火を起こすために落ち葉や木を拾いに行きました。去年とは打って変わって、問題なく火を起こすことはでき、火力も丁度いい感じになりました。いも煮の鍋を２つ、おしるこの鍋、そして、米炊きの釜、お湯を沸かすやかんを置いて、出来上がるのを楽しみに待ちました。

待っている間、たまに蓋を開けて、具が煮えたかを確認。果物むきとテーブルセッティングも始めました。お釜からご飯の炊けるいい匂いがぷーんとしてきました。蓋をあけるとまだ硬かったので、水を足して、最後の仕上げ。ちょうどいい硬さに炊き上がりました。そのご飯に梅干しを入れて塩で握り海苔を巻きました。いも煮の具にも火が通り、味噌を入れて味を整えました。おしるこの鍋に入れた餅も余熱で柔らかくなりました。

ランチタイム！暖かい日差しの下、川のそばのテーブルで、紅葉を見ながらいも煮、おにぎり、お汁粉をいただきました。本当に美味しいいも煮やおにぎり。釜で炊いたご飯は炊飯器のご飯とは比べ物にならないほど美味しくて皆が「美味しい」「美味しい」を連発。いも煮やお汁粉も美味しく、いも煮を５杯お代わりする人やお汁粉を４杯お代わりする人も現れ、おにぎりを除き全部売り切れ。おにぎりは夕食に持ち帰りました。



ランチの後、午後からは、舟に乗り保津川下りをしました。船頭さんのテンポのいい話で盛り上がりながら、嵐山に向かって進みます。時折走るトロッコ電車に手を振りながら、保津川から見える風光明媚な景色を満喫しました。嵐山につき、今度はトロッコ電車で亀岡に向かいます。真っ暗な車内からライトアップされた紅葉が綺麗に映ります。その先に、保津川の静かに流れる様がおぼろげに見えどこか哀愁を感じる景色でした。25分があっという間に過ぎ、亀岡から京都駅まで戻り解散しました。

京都で始めたいも煮会。今年で8回目になりました。ふるさとから離れていても、自分たちのルーツを忘れずに暮らし続けることは意味があることだと思っています。そして、一緒にいも煮会ができる仲間達がいることを嬉しく思います。来年はどんないも煮会になるのでしょう。とても楽しみです。

皆様、ご参加いただきありがとうございました。

Message

避難者の皆様へ
message from minnanote

2019年最後のニュースレターになりました。あっという間に12月になりましたね。みんなの手では2019年を締めくくる交流会＆2020年の年明け交流会を企画しております。交流会のご参加をお待ちしております。

Event Info

みんなの手主催のイベントや事業のお知らせです。

12月の避難者交流会

クリスマス＆忘年交流会

2019年の最後を飾るクリスマス会に参加されませんか。1年を振り返りながら楽しいひと時を過ごしましょう！お友達を誘っての参加もOKです。

日　程　**2019年12月21日（土）** 17時半～

場　所　**きのわ**　京都市伏見区両替町4-319

内　容　**夕食会**(ヘルシーで美味しい鍋を一緒にいただきましょう)
クリスマスプレゼント交換 自由参加
(330円相当のプレゼントをご持参)
クリスマス音楽会
(「アンサンブルそよ風」によるクリスマスソングメドレー)

参加費　大人 **1,000円**　子供（幼児）**500円**

申込締切　**12月18日**

餅つき新年交流会＆境野米子さんのワークショップ＆お話会

2020年の新春を祝う交流会を開催します。参加者一緒に杵で餅をつき、つきたての餅を堪能しましょう！今年のゲストは、生活評論家で薬剤師の境野米子さんです。堺野さんは福島の古民家で自然暮らしをしながら食や暮らしに関する本を多数出版しております。今年は３部構成で、餅つきの他、「自然暮らし」ワークショップと講演会も行います。

日　程　**2019年1月11日（土）**

場　所　**きのわ**　京都市伏見区両替町4-319

内　容　**第１部**　15 時～17 時　**米子先生の「自然暮らし」ワークショップ 自由参加**
野草茶･民間薬･入浴剤･化粧品など自分で作りながらお金をかけなくてもできる心豊かな暮らし方を紹介。

第２部　17 時～19 時　**餅つき＆ディナー**

第３部　19 時～20 時
お話会「震災からもう9年 古民家暮らしの中で感じること」**自由参加**

終　了　21 時頃　**自由解散**

参加費　**1,000円**　**申込締切**　**1月8日**

その他　２階のファミリースペースを解放します。まったり派の方やお子様はそちらでのんびりとお過ごしください。

上記交流会のお申し込み

参加者名・人数・電話番号・メールアドレスを記載の上、**みんなの手**までお申し込みください。
(minnanote123@gmail.com/070-5656-5621)

みんなの手
- minnanote -
ひとりぼっちじゃない
みんな一緒に手をつなごう

みんなの手 ニュースレター

MINNANOTE NEWSLETTER

12

2019 December

Take Free

Events

ふるさととつながろうツアー

12月のツアー

「いわきからオーガニックコットンで福島を元気に！」

～市民参加型の農業再生プロジェクトについて伺う～

日 時　**2019 年 12 月 28 日（土）**
集 合　郡山駅 10:15　**解 散**　郡山駅 18:00
定 員　30 名
内 容　農業従事者が高齢化を迎えて激減する中で起こった東日本大震災。地震・津波・原発事故・風評被害という複合災害に見舞れ、ますます農業従事者が疲弊する中で「ふくしまコットンプロジェクト」は始まりました。目的は、食用でなく、塩害にも強く、放射性物質の移行係数が低いとされる綿を有機栽培で育て、製品化することにより、福島県の農業の再生、及び地域に活気と仕事を産み出すことです。これまで、いろんな人が参加することで繋がり、楽しみながら、励まし合いながら、ふくしまの復興へと歩んできました。

2019年最後のツアーは「ふくしまコットンプロジェクト」のオーガニックコットン畑を訪問し主宰の吉田さんからプロジェクトのお話を聞きながら、一緒に綿摘み体験をします。現在も台風19号の被害に遭ったいわきで復旧活動にも従事されている吉田さんから災害救助についてもお聞きします。

「共につながり、一緒にいわきを応援しよう」を合言葉にこのツアーへの参加者を募ります。

1月のツアー

「懐かしいふる里～東和町の農家で過ごすお正月」

～餅つき・雪遊び・地元の人との交流～

日 時　**2020 年 1 月 4 日（土　）**
集 合　福島駅 11:00　**解 散**　福島駅 17:00
定 員　30 名
内 容　毎年恒例の東和町の有機農家の菅野さんの農家民宿を訪れます。毎回好評でリピート率が高いツアーです。2020 年の年明けも菅野さんの民宿で一緒に餅つきをしましょう。菅野さんや地域の方々の活動について、全国に離れた避難者同士の情報交換などもしましょう。美味しいつきたてのお餅が待っています。

つながろうツアーの仮申し込み方法

参加者名・人数・電話番号・メールアドレスを記載の上、みんなの手（minnanote123@gmail.com　070-5656-5621）までお申し込みください。折り返し、申し込み用紙、要項を送りますので、要項を読んでいただいた後に申込書に記載し返信していただき、申し込み完了となります。

今後の予定

雪に触れ合う交流ツアー（関西）　2019 年 2 月上旬
ふるさととつながろうツアー　2019年2月23日(日)

Workshops

レギュラーワークショップ

きのわでは定期的なワークショップや、楽しいイベント、交流会を企画しています。お友達もお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

月曜日 MON
- 毎週 大人英語（入門、初中級）
- 第4 ベビーマッサージ

火曜日 TUE
- 第2 美肌
- 第3 楽ちん抱っこ
- 第4 グルーデコ
- 毎週 キッズ英語（低学年クラス）

水曜日 WED
- 予約 鍼灸マッサージ

木曜日 THU
- 毎週 大人英語（中上級）
- 毎週 キッズ英語（低学年クラス）
- 不定期 自然整体

金曜日 FRI
- 第2 ベビーマッサージ
- 第3 大人の食育

日曜日
- 不定期 朝ヨーガ
- 第2 篠笛カフェ

鍼灸マッサージ＆相談（避難者限定）

福島県出身鍼灸マッサージ師による全身マッサージ。お一人30分のセッション。
日時：毎週　水曜日　15:00～17:00
予約要／参加費:無料／講師:松岡善雄

朝ヨーガ

インドの伝統的なヨーガを伝授。呼吸を意識し、無理なく身体を動かします。シニアの方にもオススメ！
日時：**12月22日**　9:30～11:00
予約要／参加費:無料／講師:松岡善雄

ふわふわベビーマッサージ教室

ベビマを通じてお子様もママもリラックス！親子の絆作りにも役立ちます。
第2金曜日・第4金曜日
10:30～13:30
参加費：1000 円（オイル代、アート写真メールでプレゼント込）
講師：こもざわとえみ、せとあつこ
（ローリタッチケア協会認定講師）

楽ちん抱っこと楽しいおんぶ

素手抱っこやベビーウェアリング体験、紐の調整など楽チンなコツを伝授します。
第3火曜日
9:30～11:00
参加費：1000 円
定員：5名
講師：山田今日子

篠笛カフェ

講師が吹き方を丁寧に指導しますので、どなたでもお気軽に参加できます。
笛レンタルあり（事前予約要）
第2日曜日 10:00～11:00
定員：先着5名
参加費：500 円
講師：川崎安弥子

New Workshop 幸せ美肌になるレッスン

自分を知り、自分にあった美肌作りを目指します。
第２火曜日 ９時半～11時　**事前予約要**
参加費：1,500円（避難者の方価格）
講師：咲田桃枝（インスピリットメイク）

New Workshop 大人の食育講座

「1時間でできる塩麹作り」&「簡単味噌作り」
日時：**2019年12月20日(金)９時半～**
内容：「1時間でできる塩麹作り」&「簡単味噌作り」をします。先月の味噌作りが好評で、「参加したかった！！」の声に応えて特別に味噌作り希望者の方には味噌にもチャレンジしていただきます。作った塩麹１キロと味噌2キロのお持ち帰りありです。

参加費：1,500円
講師：布施元子さん（食育アドバイザー）
要予約 お申し込み締め切り：12/16

New Workshop 色の心理で快適片づけ

色の心理から片付け方を見つけて、片付けをサポート！
(不定期) 12月2日(月)10時半 - 12時
要事前予約
参加費：1,000円（避難者の方価格）
講師：中村ちあき（Yua色住環デザイン）

楽しく身につく大人の英語クラス

レベルに合わせて、英語・英会話を指導しています。英語好きの仲間作りもできます。

入門クラス
日時：第1・2・3月曜16:20～17:20
初中級クラス
日時：第1・2・3月曜日15:00～16:10
中上級クラス
日時：毎週木曜日 9:30～10:45
参加費：1,000円
講師：西山祐子

キッズ英語クラス

英語で自己表現できる力を身につける指導をしています。
小学校低学年クラス
日時　毎週火曜日 15:45～16:45
受講料：(月4回)毎週木曜日
15:30～16:30
月額5,000 円(月4 回)
小学生高学年クラス
日時：毎週木曜日 16:30～18:00
(フォニックス&英語学習)
受講費：月謝 6,500円

New Workshop 自然整体（避難者限定）

身体の声を聞きながら、身体の歪みを改善します。施術後はすっきり！お一人30分の施術
日時：**12月12日**　14:00~16:00
予約要　参加費：無料
講師：川端さち

安斎育郎先生の「放射線防護学コラム」

被曝を減らす4つの方法

浪江の「エゴマ収穫祭」に参加しました

2019年10月25日、台風21号と低気圧の影響で、関東地方や東北地方は記録的な大雨となり、わずか半日で一カ月分の雨が降るという事態になりました。浪江町では翌26日に「エゴマ収穫祭」が予定されており、私たち「福島プロジェクト」も参加し、畑の土の放射能を調べる予定を立てていました。

前日に福島入りしていた私たちは、26日7時45分に市内のホテルを出発し、国道114号線で阿武隈高地をこえて浪江に出るつもりでしたが、あちこちで通行止め。幸い、ボランティア・ドライバーを買って出たてくれた地元のMさんが道を知り尽くしており、114号線➡399号線➡288号線➡399号線➡36号線などと迂回路をたどりながら、無事に浪江にたどり着きました。

エゴマ畑は冠水して大変でしたが、エゴマ収穫祭会場の喫茶店“OCAFE”ではエゴマ農家の石井絹江さんたちが用意した美味しい料理と、シンガーソングライターの菅野潤さんの演奏プログラムが用意され、私たちも楽しみました。私は、今年収穫されたエゴマにも有意の放射能が検出されなかったことを紹介し、求められるままに手品をいくつか演じました。実は私は「国境なき手品師団」の名誉会員でもあります。

収穫祭を陣頭指揮する石井絹江さん（右）

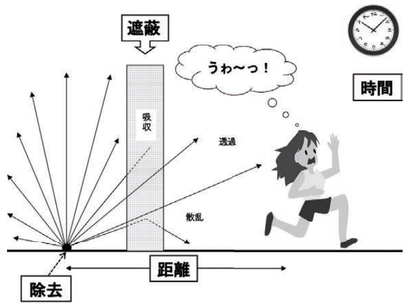
熱演する菅野潤（すげの・じゅん）さん

放射線から身を守るには？

さて、このシリーズで「放射能を消す薬はないし、原理的にこれから先も開発されることはない」ことを述べましたが、講演会などでそう述べるとがっかり顔になる人が少なくありません。でも、科学は時として冷酷で、「出来ないものは出来ない」というしかありません。

しかし、「被曝を減らす方法」ならあります。４つあって、４つしかありません。これを実践すれば、被曝は確実に減ります。

放射線から身を守るための4つの方法は、次の通りです。
①生活圏の放射性物質を取り除く（除染）
②放射性物質と人体とのあいだに遮蔽物を置く(遮蔽)
③放射性物質に近づかない＝汚染から遠ざかる(距離)
④放射線レベルが高い場所にいる時間を短くする(時間)



(1)除染

除染というのは放射線物質を取り除いてどこか遠くへ移すことで、「移染」とも言われます。放射線物質が消えうせるわけではなく、放射性物質が自分まで届かないほど遠くへ移動させるということです。除染の効果は顕著で、なにしろ身の近くにあった放射性物質が取り除かれるわけですから、除染する条件がある場合には何を置いても除染が大切です。

ただ、福島の事情に即していれば、除染廃棄物を「中間廃棄物処分場」に持って行ったのはいいとして、言われているように30年後にそれを再びどこかほかの都道府県に移すというようなことは現実的などうかということです。事情を理解してそのような放射性廃棄物を引き取ってくれる地域もあるかもしれませんが、自分の地域で発生したものでない放射性廃棄物を快く引き取ってくれる自治体は多くはないような気がします。本来は、現在の技術でも十分可能なのですから放射性は器物を厳重に封じ込めて、その上はギガ太陽光発電所にするとか、緑豊かな遊園施設にするとか（現代の放射線防護技術で十分可能です）、その近くにはノーベル賞級の研究者をそろえた低レベル放射線影響研究所をつくるとか、福島の人々にはちょっと悔しい気がするかもしれませんが、その方がはるかに現実的であり、移転先のたらいまわしによる「福島の沖縄化」を防ぐ道であろうと思います。

とにかく、生活圏にある放射性物質を出来るだけ取り除くことは、何よりも大切なことです。そして、現にそれを実施した地域の放射線被曝は確実に減少しています。

(2)遮蔽

放射性物質を取り除けない場合には、放射性物質から出た放射線が体に届く前に遮蔽物によって食い止めてしまうことです。これも大変有効な方法です。福祉の保育園の中には、園庭の周りを水入りのペットボトル何千本かで取り囲み、外からくる放射線を遮蔽したところもあります。

ペットボトル作戦（福島市の保育園）

66回の福島調査でよく体験したことですが、調べにいった家の周囲には結構たくさんの瓦やレンガや石があるのです。それをホットスポット（放射能のたまり場）に置けば被曝は効果的に減らせます。ちょっとしたことですが、知ってると知らないとでは大違いです。

(3)距離

放射線はその名の通り「放射状に広がる」ので、放射性物資の近くでは「濃密に」被曝しますが、遠くに行けば行くほど「希薄に」なり、被曝線量は少なくなります。光源から遠くに行けば行くほど暗くなるのとまったく同じことです。

だから、放射能汚染があるところには近づかないことが大切ですが。そのためには「どこに放射能汚染があるか」を知らなければなりません。もしも、家の周囲のどこに放射能汚染のたまり場があるかをお知りになりたければ、私たち「福島プロジェクト」に連絡してください。福島調査計画の一環に組み入れ、日程を調整して調べに行きます。もちろん無償で。連絡は私宛てのメールでOKです（jsanzai@yahoo.co.jp）。

(4)時間

被曝する時間が長ければ被曝が多くなり、短ければ短いほど被曝は少なくて済みます。だから、放射線の高い場所には長居しないことが大切です。そのためには、家の中や家の周囲で、あるいは住んでいる地域のどこが放射線のレバルが高いかを知らなければなりません。もしもそれが分からないで不安だという場合には、私たち「福島プロジェクト」に連絡してください。

こんなことも調査の過程で経験しました。ある家で2階の部屋に二段ベッドを置いてお子さん二人を寝かせていましたが、私たちは寝床を一階に移すように勧告しました。2階の（とくに二段ベッドの上の段は）汚染した屋根に近く、被曝が1階に比べて1時間当たり0.1マイクロシーベルトほど高かったのです。1日8時間寝るとして、2階で寝ると1階で寝るよりも365日では約300マイクロシーベルト（0.3ミリシーベルト）余計に浴びることになります。だから、「調べる」ということが大変大事で、どうぞ遠慮なく「福島プロジェクト」に連絡してください。

「安斎育郎先生」のプロフィール

経歴 東京生まれ。東京大学工学部原子力工学科卒業。同大学大学院工学系研究科原子力工学専門課程博士課程修了工学博士。「放射線管理におけるPersonnel Monitoringに伴う不確定さの確率論的評価に関する研究」。立命館大学経済学部教授。「核実験停止を求める国際科学者フォーラム」に招待される。京都造形芸術大学非常勤講師として平和学を担当。
現在 立命館大学定年退任、名誉教授。

活動報告 - 第４回ふるさととつながろうツアーを振り返って

10月のツアーが台風の影響で中止になったため、今回のツアーは無事に開催されることを祈りながら当日を迎えました。「市民活動について知る」をテーマに芋煮をしたり美術館を訪れたりして、食欲の秋と芸術の秋を満喫するという内容でした。

グッディマーケット訪問

福島駅に集合して、まずは毎週日曜日に開催されている「グッディマーケット」を訪れました。グッディマーケットは福島の生産者が消費者との距離を縮めようと毎週日曜日に直売する市場です。新鮮な野菜や果物や加工品がお手頃価格で購入できます。そこには２昨年前のツアーでぶどう狩りに行った佐藤果樹園の佐藤さんも出店されていて、以前の参加者と再会されて喜んでおられました。今年最後のぶどうのネオマスカットとピオーネをいただき、他の生産者さんからも季節の果物をランチのために購入しました。

次に、飯坂電車に乗り、福島県立美術館のそばにある「如春荘」に向かいました。そこには、グッデイマーケットの運営と如春荘の管理をされている佐藤宏美さんと地元の方々が私たちを出迎えてくれました。

如春荘で芋煮を楽しむ

「如春荘」はよく手入れされていた古民家でした。佐藤さんのお話では、当初は雑草だらけだったところを皆で協力して掃除と整理をして使えるようにしたそうです。昔懐かしい建物、部屋から見える景色、何気なく活けてある野の草に自然に心が癒されて、幸せな気持ちになりました。

私たちの到着する前に、佐藤さんたちが芋煮の準備をしてくださっていて、私たちはおにぎり作りと果物の皮むきとセッテイングをしました。皆揃って「いただきまーす」。「福島のお米は美味しい！！」と、感動しながら、塩握りと味噌握りをいただきました。ぶどう、りんご、キウイ、全て美味しく、お腹も心も満腹になりました。

食後は、参加者の近況報告の時間。避難移住者からは、いわきに帰り台風の被害が大きかったことや対応に懸念していること。避難移住先での仕事の再配置でストレスを感じていること。災害を通じて命を守る力が大切であることを実感しているとの話。そして、福島側の参加者の中からは、京都から福島に移住し、今は田んぼ作りや如春荘での活動を通じて、ゆるやかにつながりながら、場を盛り上げていきたいと思っているとのお話。主宰の佐藤さんからは京都から福島市に戻り転職して、今は自然農業をしている話も伺いました。

互いに打ち解けた後で、お招きしていた福島大学総合教育研究センター特任准教授であり「一般社団法人ふくしま学びのネットワーク」代表の前川直哉先生のお話を伺いました。

前川直哉先生のお話　阪神淡路大震災を体験して

うちは喫茶店を経営していました。阪神淡路大震災が起きたのは私が高校3年生の時でした。特に尼崎や西宮の被害が大きく、実家の喫茶店が被害を受けて自営業が潰れました。当時神戸の灘中高に通っていました。学校は、震災後によく報道された崩壊した高速道路から約１キロくらいのところにあり、あの時、日常が壊れたことを経験しました。

震災当時、受験生で、(震災が起きたのはセンター試験の2日後。２次対策に取り組む時期)家庭の経済状況を考えると、自分が大学に進学してよいのか悩みましたが、周囲の支えがあり、第一志望校の東京大学に無事入学できました。その後、民間の塾に就職して、2007年灘中・高の非常勤講師になり日本史を教えていました。

東日本大震災で繋がる

2011年、東日本震災が起きた時も灘校に勤めていました。震災を経験をしているので、なんとかしたいと思い、2011年8月に同僚と二人で釜石行き、泥かきのボランティアをしました。「５ヶ月経っているのに、津波の被害で町がぐちゃぐちゃになっていて津波の被害をすごさを改めて実感しました」。

生徒たちにボランティアの話をすると、興味を持って行きたいという声がありました。思い返せば、阪神淡路大震災(1995年)から16年。ちょうど０歳だった子どもたちが高校生になっている。その間にいろんな人に助けられて神戸の街は良くなったと聞いている子どもたちにとって、東北でのボランティアは意味があることと考え、ボランテイアを募りました。

2012年3月の春休みの期間中に、まずは、宮城県の山元町を訪れました。次に高校のOB先輩の紹介で福島県の南相馬も訪問しました。紹介してくれた先輩は東大の医科学研究所から南相馬に行き医療支援をしていました。山元町から南相馬に移動して２日間ボランティアをし、相馬高校の生徒たちとの交流もしました。「それまで福島のことをテレビで見るだけの生徒たちが交流をすることによって福島との距離が縮まった」と感じました。

その後から、灘高の生徒と春・夏・冬に合宿で3泊4日福島を訪問するようになり、様々な方々のお話を聞きました。合計26回、300人ほどが訪れました。引率をしている間に、福島が好きになって、福島で働きたいと思いました。そして、自分の担任している学生が卒業する2014年に福島市に引越してきました。

「ふくしま学びのネットワーク」の発足

2014年から、ひとりNPO「ふくしま学びのネットワーク」を立ち上げました。これまで福島県の高校生を対象に無料セミナー「夢をかなえる勉強法」を13回開催してきました。知り合いの先生方に声をかけて福島の子ども達に教えています。昔は合宿もしていました。灘高校で英語を教えている木村先生は、最初に福島行きを伝えた先生です。先生に声をかけると、「手伝ってやるわ。」と快く引き受けてもらえました。もちろん交通費も謝金も払っていません。「福島の子たちは、英語を話せるようにならなければならない。伝えたいことがあれば、海外に伝えなきゃいけない。そうしないと世界で同じことが起こってしまうよ。」と、そんな熱い想いを持って教えています。(他にも、代ゼミで現代文を教えている藤井先生やプリパスで数学を教えている数理先生もセミナーの講師をされています。)

時に、なんのために学ぶのがわからなくなり、自分のためにといってもそれが勉強する理由になりづらい時があります。なぜなら今やっている勉強が将来使えるかわからないからです。そんな時に、「勉強すると力になりたい時に活躍できるよ。」と言うと、福島の子どもたちには響くんです。「ずっと誰かの支える人生は嫌だ。そのためには勉強が必要だ。」と考えるからです。そんな子どもたちの夢を体実現したいと思っている大人がいる。そんな学びの場があるのはいいことだと思っています。これまで2000人ほどが参加しています。

福島が熱い。。。

福島県内全体が震災で影響を受けた後に、この社会を変えていこうと、自分なりに考え、それを実行に移している福島県立高校の生徒がいました。外部被曝に関して調べ、英語で学会で発表したのです。「灘高校は負けている。福島高校に負けている。」と心から思いました。福島の高校生はすごいと思いました。

教育業界で話題のPBL(Problem Based Learning)問題解説型学習や21世紀型学習に教室で取り組んでいる子ども達がいる中で、福島の子ども達は課題を見つけ自分たちで解決しています。私は、2014年から「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」を実施してきました。現在は、福島県教育委員会とも一緒に行っています。これは、福島の高校生を対象に、地域や社会を良くしようとする活動のコンテストです。

応募者の中には、震災時にカンボジアの貧しい村人から寄付をもらったことに感動して、そのお礼に、絵本を集めカンボジア語に翻訳して送る活動をした高校生たちがいたり、担い手のいない農業と障がい者の働く場を連携する農福連携の取り組みをした農業学校の高校生等、様々な取り組みをしている高校生が福島にはたくさんいるのです。

「福島にいても安心して学べる」

偏差値や、ペーパーテストは意味がなくなるだろうと思います。将来、AIが入ったら機械には勝てないのです。ペーパーテストを解くことに長けた人はいらなくなります。原発事故が起こり、原発は東大や京大で忖度できる人―つまり相手が望んでいる答えを考える人―が作ったのに、あの事故は、防げなかったのです。学歴エリートが予想できなかった事故。私は、6年前ここに来たのが正しかったなと思います。なぜなら、福島にしかできないことことがあるからです。課題はここにはたくさんあり、学びの場として福島はとても魅力的な場所なのです。

ここで活動した子どもたちが大都市で育ったきた子どもたち以上にこれからの社会を作って行くと思います。そして、世の中を変えて行くのです。

だから、「福島にいても安心して学べる」ーー私はそのように思います。

子ども達は震災と原発事故が起こり、大人たちが、「まず子供を守れ」と行動していた姿を見ていました。県内で、避難先でも、子どもたちのために活動していたその大人の姿を子ども達は見てきたのです。それは大変だったことでしょう。

でもその中に学びがありました。「この社会って自分たちで作っているんだ。」「人に頼って文句だけ言っている場合じゃないんだって。」サボっている大人もいたけど、頑張っている大人の姿もあったこと。そして、福島がちょっとずつ良くなっていることも。

洪水の被害のあった宇陀川の近く相馬東高校は台風の影響を受けました。福大の学生が自発的に相馬東高校に清掃活動に行きましたが、自分たちの学校は自分たちで片付けようとする意識の高さを感じました。

福島での暮らしそしてこれから。。

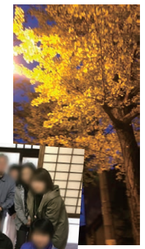
福島に来て、私たちのカラダと土は繋がっているんだと実感しました。すると、５センチを削ればいいんだという環境庁の人の発想は受験勉強により作られたのだと改めて感じました。原発事故の対応を見ている限り、社会を変えていかなければならないと思います。変わるのは難しいとは思いますが。

これから、もっといいものを作っていこうと思っています。福島では思いのある人たちと不思議と繋がっていけるんです。それが本当に嬉しいです。本当にここに引っ越して来て良かったです。

如春荘から美術館へ

前川先生のお話に参加者全員が感銘を受けて、「もっと話を聞きたかった」とアンコールの嵐でした。

あっという間に時間がすぎ、如春荘を後にし、少し葉が色づき始めた県立美術館の庭を散歩し、白河市出身の洋画家「関根正二展」を見学しました。短い生涯に多数描きあげた作品。自らの人生に置き換えながらその一つ一つを大切に鑑賞しました。



イチョウ並木を歩きながら１日を振り返り心に残ったことを語り合いました。帰りも２両編成の飯坂電車に乗りあっという間に福島駅到着。またの再会を約束して解散しました。

避難移住先で子どもの進路を考える時、偏差値や大学の数で子供の将来を決めがちになり、福島に帰還することを躊躇してしまう。そんな悩みに答える形で、福島でしか学べないことがあると断言された前川先生。壊れてしまったコミュニティの課題を探し解決法を考え実践していく。そんな最先端の学びの場が福島にあることを知れたことが嬉しい発見でした。貴重なお話をありがとうございました。

Minnanote is supported by

福島県　ふくしまからはじめよう。 "Future From Fukushima."　SOROPTIMIST

国際ソロプチミスト京都 - 北山

発行者：一般社団法人みんなの手
〒612-8082 京都市伏見区両替町4-319
近鉄「桃山御陵前」駅 徒歩2分
京阪「伏見桃山」駅 徒歩1分
メールアドレス：minnanote123@gmail.com
フェイスブック：www.facebook.com/minnanote

みんなの手
相談・お問い合わせ・お申し込み
TEL：075-203-8705
携帯：070-5656-5621
きのわ
ワークショップ・イベントお申し込み
TEL：075-632-9352